

1

宮城県白石市

宮城県白石高等学校

- 学科等 / 普通科・看護科
- クラス数 / 21クラス
- 生徒数 / 839人
- 建築主 / 宮城県
- 所在地 / 宮城県白石市八幡町9-10
- 工事種別 / 新築
- 敷地面積 / 18,319㎡
- 延床面積 / 16,167㎡
- 竣工 / 2010年2月

普通科と看護科の両科の特性に対応した各室を整備、 専攻科看護科にも対応した施設を実現

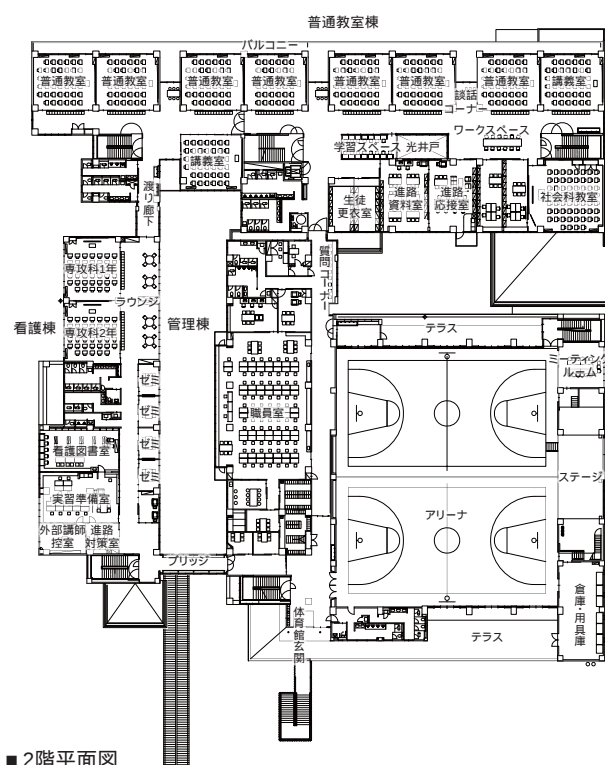
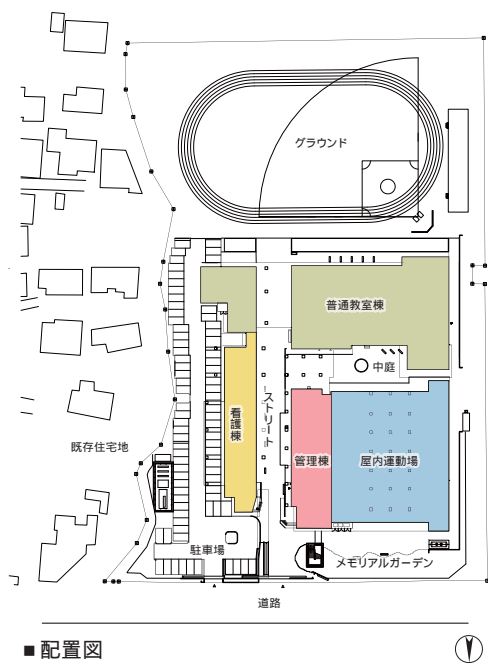
現宮城県白石高等学校の校舎は、2010年度の宮城県白石高等学校と宮城県白石女子高等学校との統合に対応するために新築された。普通科と専攻科を含む看護科を併設する新校舎は、両科の特性を考慮した空間配置に重きを置いている。



校舎全景。狭隘な土地にありながら、各棟が適切な距離を取りつつ、コンパクトに集約された。

計画に見られる 指針改訂のポイント

- 1.主体性を養う空間の充実
- 2.効果的・効率的な施設整備
- 3.運動環境の充実
- 4.キャリア教育・職業教育の充実



1.主体性を養う空間の充実

└校内に遍在する自発的な学習の場



1 オープン(左)とクローズド(右)な学習スペース。オープンな学習スペースには、光井戸に沿うように配された机もある。クローズドな学習スペースは、一部ガラス張りになっており、室内の圧迫感を軽減している。



2 普通教室間の談話コーナー。友人同士で語りあったり、昼食を取るスペースとして利用されている。教室からアクセスしやすい場所に整備しており、短時間の面談や生徒から相談事を聞くときにも利用されている。



3 図書館には閲覧機の他、自習ができるキャレルもある。

教職員の視点

生徒が利用しやすい場所に 学習スペースを遍在させる

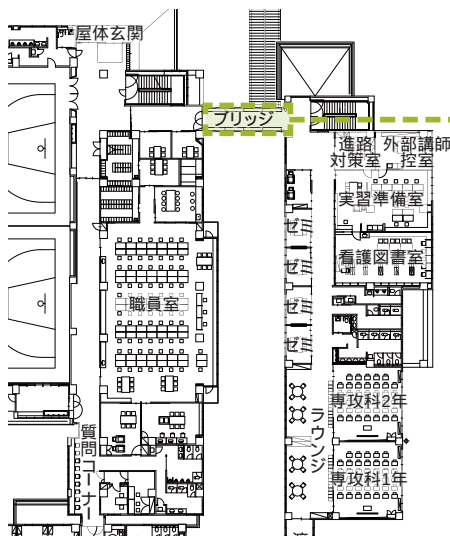
普通科は、進学重視型の教育課程を導入しており、新校舎では生徒の自学・自習を支える場づくりに注力しました。昇降口前にある年次を問わずアクセスしやすい図書館は、閲覧用の机が並んでおり、読書だけでなく勉強に励む生徒も少なくありません。普通科棟の2～4階の各フロアには、オープンとクローズドな学習スペースがあり

ます。オープンな学習スペースは、進路室や各教科準備室前にあり、疑問があれば準備室内にいる教員に質問することができます。クローズドな学習スペースは、朝や空き時間、放課後など教室が騒がしくなる時間帯に勉強したい生徒がよく利用しています。また、進路室や談話コーナー、職員室前の長机などでも学習に取り組む生徒の姿をよく目にします。生徒が日常的に立ち寄る場所の近くに、

たくさんの学習スペースを設けることで、自然と生徒に自学・自習の習慣が広がっています。
(写真1～3)

2. 効果的、効率的な施設整備

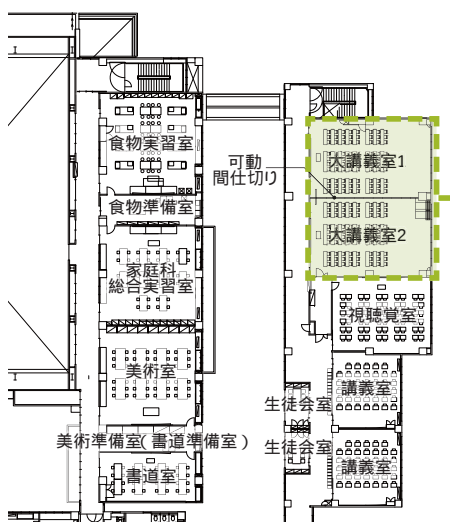
└ 高校課程と専攻科の授業環境に配慮した新校舎



4 2階平面図



5 管理棟と看護棟を結ぶ合理的な回遊動線を構成するブリッジ。



6 3階平面図



7 看護科及び普通科で共有する大講義室。

校長の視点

異なる時間割によって 生じる騒音に配慮

白石高等学校は、進学重視型単位制の普通科と、専攻科を有する5年一貫教育の看護科を併設しています。当校の看護科は、高校課程では普通科と同様の「1時限:45分授業」の時間割となっています。しかし、専攻科へ進学すると「1時限:100分授業」に変わります。そのため、チャイムや授業間の移動等で生じるお互いの歩行音や話し声が、授業を受けて

いる生徒の集中の妨げになってしまう恐れがありました。

新校舎は、普通科棟、看護科棟、管理棟、屋内運動場の4棟から成り立っており各棟それぞれが適度な距離をとっているため、騒音を和らげる効果があります。ただし、普通科の教員が看護科棟に授業に行くこともありますので、管理棟と看護科棟を結ぶブリッジを設けて合理的な回遊動線を確保することにより、学習への集中を高める配置としていただきました。

設計者の視点

新校舎の計画は、国道と住宅地に挟まれた狭隘な敷地に4棟をコンパクトに集約した計画になっています。中庭や南北に通りぬけるストリートは、採光や通風を確保するためだけでなく、各棟間に適正な距離感を与えています。外部実習が多い専攻科の昇降口を普通科と分けたり、渡り廊下などの必要な箇所に騒音を遮る効果がある扉・戸を配したりするなどの騒音対策も行っています。

(設計 / 関・空間設計)

3.運動環境の充実

└アリーナに隣接し、一体に使用できるミーティングルーム



8 ミーティングルームの外とアリーナそれぞれにホワイトボードが掛けられており、打合せなどがしやすい。

4.キャリア教育・職業教育の充実

└実習及び座学が一室で行える基礎看護実習室



9 座学スペースと実習スペースが一体化した基礎看護実習室。座学スペースは階段状になっており、生徒が教師・外部講師の処置の様子を見やすいように工夫されている。

教職員の視点

練習計画やゲームの作戦を 即座に話し合えるスペース

アリーナに隣接するミーティングルームがあり、部屋の外と室内それぞれにホワイトボードが掛けられています。授業や部活動での指導の際に、口頭だけでなく、文字や図により生徒の視覚に訴えることで、こちらの意図がより生徒に伝わりやすくなったと思われます。

(図8)

よく「聞き」、よく「見る」ことで 生徒の理解力が高まる

看護科の実習は、市内の公立刈田総合病院などに出向いて行うものと、学校で行うものに分けることができます。

学校で行う実習には看護科棟にある基礎看護実習室、医療器具標本室、成人・母性・小児看護実習室などを使用します。それらの中でも特徴的なのが、座学スペースと実習スペースが一体化した基礎看護実習室です。

座って教員や外部講師の話を聞き、ノートを取ることができ、なおかつ目の前で実演された処置を他の教室に移動することなく、生徒が実習することができるようなレイアウトになっています。

(写真9)